



第九卷第七號

卵の花

きれいな生

緑にうつる白たへの、

卵の花をれとわれ知りし、

山は秀で、水さよさ、

里に繼母君ねむります。

生みの母君知らぬ我、

なつかしかりし繼母君は、

ただ一夏の卵の花の、

陰やすらかに逝きましぬ。

知りしうれしき暫しにて、

更になしきみなしごの、

われになげやと夏毎に、

卵の花くだし降りそぐ。